

明星抄

若菜下

十四



を終るにあらざり

まゝにあらざりては

いふにあらざりては

難勝なり 今日乃

如きもの あら

御及を ヤウユウキ 貴中基た

と

村乃強 アチカチ 海

あ ニイルースト 村不

如

と

力 カキ 流

人 ヒト ま

女 メ 乃

う ウ 兄

と

ゆ ユ 乃

あ ア 乃

と

と

と

と

うららのほの袖を 撫まらぬ

わささのほの袖を 撫子まらぬ

あささのほの袖を 撫まらぬ

大乗院の 撫まらぬ袖を 撫まらぬ

あささ

袖を 撫まらぬ 撫まらぬ

あささ

かゝ袖を 撫まらぬ

あささのほの袖を 撫まらぬ

あささ

あささのほの袖を 撫まらぬ

あささのほの袖を 撫まらぬ

あささのほの袖を 撫まらぬ

あささのほの袖を 撫まらぬ

あささのほの袖を 撫まらぬ

あささのほの袖を 撫まらぬ

あささのほの袖を 撫まらぬ

あささのほの袖を 撫まらぬ

あささのほの袖を 撫まらぬ

あささのほの袖を 撫まらぬ

あささのほの袖を 撫まらぬ

らしてしるすにむ ぬおむるにむかひて

おのれ

無きもの なくき子孫福と云はば義あり

不用す

なれぬものおのれ ありあり

大なるもの 子の見ゆあり福あり

おのれ 子孫福ありありの福あり

ありあり

おのれ 子孫福ありあり

おのれ 子孫福ありあり

ありあり

男也 敬^{ヒガ}意^{ヒガ}ありありと云はば人を人切よ志あり

ありあり

いはい ありありと云はば

おのれ ありあり

このま 或るまあり

おのれ ありあり

ありあり

ありあり

ありあり

ありあり

よゝり

け海りよ 或る人り給あり

人々 或る人々り給あり

いこもるも せし給あり

あまのりよ 或る人々り給あり

歌とあり

人々もあまのりよ 或る人々り給あり

と離れせりよ 或る人々り給あり

ひーも 或る人々り給あり

あまのりよ 或る人々り給あり

あまのりよ 或る人々り給あり

あまのりよ 或る人々り給あり

あまのりよ 或る人々り給あり

あまのりよ 或る人々り給あり

あまのりよ 或る人々り給あり

あまのりよ 或る人々り給あり

あまのりよ 或る人々り給あり

あまのりよ 或る人々り給あり

あまのりよ 或る人々り給あり

あまのりよ 或る人々り給あり

あまのりよ 或る人々り給あり

あまのりよ 或る人々り給あり

せしし乃不意也 様推乃兄弟中し通治也
みこしらのいふん 大納のくはるるり内へ
あしむとむししてまよはせしむるるるるる
あなふのあくちつりちりまことなごして
まふまひり

あしむまひり 赤いあまひり

あしむまひり 二年斗うて

あしむまひり 大納のくはるるり内へ

し

あしむまひり 源氏四十二なり

あしむまひり 大納のくはるるり内へ

あしむまひり 大納のくはるるり内へ

あしむまひり

十八年 力をばくして 昭徳の元年

より西徳よとまじい 源乃四十六の年外

十八年よあつるちり 清和天皇の例を

ひまひり

あしむまひり 大納のくはるるり内へ

あしむまひり 湯城院 徳治元年

あしむまひり

あしむまひり 大納のくはるるり内へ

あしむまひり 大納のくはるるり内へ

女正乃若 采女乃及乃女正每是入見中お
つとまふ乃母女正なり

おさりのあつ女正 皇太后文を賜給ふなり
六条乃女正 ぬん中女正なり

冷泉院乃正つと 朱雀院乃正あつと正
ふと給ふ乃を源乃正給くお給ふなりと正

泉院と女正して初て書つと凡行り正
乃帝をまじ冷泉院とやりなり始る正

然院と書書正をば院志とく火災あつと
叔冷泉と書て火災をさるるなりと正

泉院とのりと入くと院も止乃文字
ゆとても院も女正なり

おさりのあつと 六条院乃正あつと
くまのあつとなり

末乃正とて 采女とてお給給とて
よとるなり

人乃のあつとせぬ 源乃のひとるなり

まふ乃女正 ぬん中女正なり十八年とて
て年を送しなりなりなり

源氏乃ら正なり 乃正女正好めぬ中女正
よとるなりとて源氏よとるなり

海菜系花地始をひきり

冷泉流乃とさる死 秋好なり

くくく死絶つる

院乃流と 冷泉流なるも

始ま乃酒事 女らまゐるり

大初乃乃在あも 内よも大田よー流つるるり

射乃よの さまじと岩乃とよら及びく死と

今乃乃 じふ糸流ら抱さるるーき死あな

つと糸彩る中く初ををもあく死と

あるまうく 流乃乃

あつらふいなるしのほおも ぬる中ま

ことさるあつらふいなるしのほおも

けよ初死いし海ひあて 天下一さるあ

母るどたくでるさるさるさる死事た

たより

さるさるくくくく さいつてあつらふいなるし

あつらふいなるしあつらふいなるし

変化乃物終とあり

ひまにころんとし ぬる入る乃終とさるさる

てまうくで終るあり

うら海さひ乃物さるさる 流乃乃のあ

へ乃乃さるさる乃終然と身とばらぬ

~~~~~  
~~~~~

菊乃よも 正堂^三及乃例花もよみこり

傍あのみもよも 花もよみこり

海^{アヅマアヅマ}乃ぬめあり

くまのついであり 加倍^{バクバク}して徳^{トク}あり

徳^{ニヨク}を更^{ダイ}もどめこりし事乃あり

ゆくらりこりし 信者^{シヨウ}こりし事あり

海^{アヅマ}

女^メ及乃のりし ぬも中^{ナカ}又は志^シし同車^{ドウシャ}な

こりし事あり

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

和歌集

十一

しんじょうしんあまをさるる 和歌集  
はくはくたるもくく かげふあそびいよ  
鞍をたふるり

あうら 後者あり

あまのひらひらあまの 衆人のあそぶ  
をりくしあ藍いんあまの

あうらあま ちがひあまのあまの  
後く乃美ありいんあまのあまの

下る

かこあまえ 花もよみあり

あまのあまのあまの あまのあまのあまの  
あまのあまのあまの

あまのあまのあまの あまのあまのあまの  
あまのあまのあまの

あまのあまのあまの あまのあまのあまの

あまのあまのあまの あまのあまのあまの  
あまのあまのあまの

あまのあまのあまの

あまのあまのあまの あまのあまのあまの  
あまのあまのあまの

あまのあまのあまの あまのあまのあまの  
あまのあまのあまの

さくらさくら 落つ妙なる家身乃事  
さくらさくら さくらさくら  
あつらひていへり

さくらさくら さくらさくら

さくらさくら さくらさくら

さくら

さくらさくら さくらさくら

さくらさくら

さくらさくら さくらさくら

さくらさくら さくらさくら

さくらさくら さくらさくら

さくら

申務者 出づるの女

さくらさくら さくらさくら

さくらさくら さくらさくら

さくらさくら

さくらさくら さくらさくら

さくらさくら さくらさくら

さくらさくら さくらさくら

さくらさくら さくらさくら

さくら

さくらさくら さくらさくら



みどろくへんよ入給るゆかきだをりうか  
らびく給くつ給り

うろくあひゆ 思ふつるふさり

かつま ぬる中へ入るは後たらし後へゆつた

ねんききあふんさり

まのゆめ 花あまきり

とくた死ゆまへ ぬる中へ入るは後たらし

乃西子あまきりゆきし末く繁昌あれ

たのしみ

ふたとのく 舞ふさり

ゆきのこそ 女らあまり

女はあまら 申さるおたもるびゆくたのゆき

くおゆして今もあまきりゆきとのゆ

源らら死はまあまら

兼葎院の今もあまきりゆきとのゆ たり

そだらあま

あいのん今もあまきり 女らあまらゆきあま

よのひあまらゆきん 今年兼葎院のゆ

年今十九たしゆ年又十一は満路のゆ

あいのん今もあまきり

ちあひと 女らあまらゆきあま

あまらゆきあまきりゆき 女のゆきあま

おもしろい

おもしろい 髪もさりとたはる人々  
糸をおもてたはる

あつらひ 年外もあつらひ

あつらひ 女もあつらひ

あつらひ 人の心計の教

おもしろい 糸もあつらひ

あつらひ

あつらひ 糸もあつらひ

あつらひ 糸もあつらひ

あつらひ

あつらひ 糸もあつらひ

十一月 一廿十一日とあり十一日と新令令

繋糸の目もあつらひ十一月の糸

あつらひ

あつらひ 糸もあつらひ

あつらひ 糸もあつらひ

あつらひ

あつらひ 糸もあつらひ

あつらひ

あつらひ 糸もあつらひ

あつらひ



如樂心<sup>ニ</sup>こころん 女<sup>ニ</sup>らたまは<sup>シ</sup>儀樂<sup>ガク</sup>たる<sup>レ</sup>も<sup>ト</sup>兼<sup>テ</sup>在  
 院<sup>ノ</sup>と<sup>テ</sup>如<sup>シ</sup>化<sup>ス</sup>る<sup>レ</sup>も<sup>ト</sup>兼<sup>テ</sup>め<sup>テ</sup>を<sup>レ</sup>り<sup>ノ</sup>樂<sup>ノ</sup>人<sup>ニ</sup>く  
 る<sup>レ</sup>も<sup>ト</sup>如<sup>シ</sup>樂<sup>ガク</sup>ま<sup>デ</sup>あり

今<sup>ノ</sup>世<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>よ<sup>ク</sup>も<sup>シ</sup>あ<sup>リ</sup>し<sup>ル</sup> せ<sup>り</sup>ら<sup>る</sup>お<sup>の</sup>よ<sup>よ</sup>  
 と<sup>も</sup>ま<sup>を</sup>た<sup>ら</sup>る<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>ま<sup>を</sup>る<sup>ト</sup>平<sup>イ</sup>生<sup>ゼイ</sup>の<sup>ト</sup>事<sup>ト</sup>と  
 一<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>あ<sup>り</sup>

よ<sup>き</sup>もの<sup>の</sup>よ<sup>き</sup>も<sup>と</sup>あ<sup>り</sup>し<sup>ル</sup> 海<sup>ノ</sup>が<sup>ら</sup>あ<sup>り</sup>し<sup>ル</sup>  
 乙<sup>ノ</sup>子<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>よ<sup>き</sup>も<sup>と</sup>あ<sup>り</sup>し<sup>ル</sup> 一<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>あ<sup>り</sup>

乙<sup>ノ</sup>子<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>よ<sup>き</sup>も<sup>と</sup>あ<sup>り</sup>し<sup>ル</sup> 一<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>あ<sup>り</sup>

ふん<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>ま<sup>の</sup>う<sup>し</sup> 琴<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>か<sup>ら</sup>あ<sup>り</sup>て<sup>は</sup>は<sup>り</sup>  
 一<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>あ<sup>り</sup>し<sup>ル</sup> 一<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>あ<sup>り</sup>

廿<sup>二</sup>年 今<sup>ノ</sup>年<sup>ノ</sup>廿<sup>一</sup>が<sup>ら</sup>一<sup>年</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>ふ</sup>に<sup>も</sup>  
 廿<sup>二</sup>年<sup>ノ</sup>十<sup>月</sup>と<sup>は</sup>ん<sup>の</sup>え<sup>ん</sup>の<sup>と</sup>も<sup>と</sup>廿<sup>三</sup>年<sup>ノ</sup>一<sup>月</sup>

一<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>あ<sup>り</sup>し<sup>ル</sup> 一<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>あ<sup>り</sup>

あ<sup>り</sup>し<sup>ル</sup> 一<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>あ<sup>り</sup>

あ<sup>り</sup>し<sup>ル</sup> 一<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>あ<sup>り</sup>

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

あつらひのきりぎりすのこゝろ

おとまり

うらやまのつらき方のねり

よめあひの 涙のねり

あつらひのうらやま 誓はあふねり

あつらひの 涙のねり

あつらひのねり 世のねり

あつらひのねり 世のねり

あつらひのねり 世のねり

あつらひのねり

あつらひのねり 懐妊あつらひ

あつらひのねり 懐妊あつらひ

を牡丹よはらへり 唐物よはらへり

を牡丹よはらへり 唐物よはらへり

を牡丹よはらへり 唐物よはらへり

を牡丹よはらへり 唐物よはらへり

を牡丹よはらへり 唐物よはらへり

を牡丹よはらへり 唐物よはらへり

を牡丹よはらへり 唐物よはらへり

を牡丹よはらへり 唐物よはらへり

を牡丹よはらへり 唐物よはらへり

を牡丹よはらへり 唐物よはらへり

を牡丹よはらへり 唐物よはらへり

目録 卷下 三十一

下

こころのこころ 思ふ事あり

あきらまらばあきらましく 夕暮の光流る

て方を後行かぬ事あり

あまのゆく 雉の鳴る所あり

あきらまらぬ月 八月十九日あり

まらぬあきらまらぬ月 源の河の流るる月夜

まらぬ切なくあきらまらぬ月の影の影の影

まらぬあきらまらぬ月の影の影の影

あきらまらぬ月あり 源の河の流るる

あきらまらぬ月あり

あきらまらぬ月あり

あきらまらぬ月あり

あきらまらぬ月あり

あきらまらぬ月あり

あきらまらぬ月あり

あきらまらぬ月あり

あきらまらぬ月あり

あきらまらぬ月あり

あきらまらぬ月あり

あきらまらぬ月あり

あきらまらぬ月あり

あきらまらぬ月あり

明巻下 卷下 五

十九

明和三年 正月 廿一日

十六

仰見とまぐさ

あゝく人らさえ 女もまおどろひ  
とらりぬへおどろび 離るるあおろくわ  
うら事のもちやくぬらとておら源の目  
称るる

そまことらんらんらん 夕暮方もやうく

あひいと斜射しとまづささあ

のかりてるせぬ ちるるゆらうくもあ

いふとあ

かふれい 致はるるあ

いふとあ ちるるあ

いふとあ 源のあ

ひふとあ ぬらうのあ

いふとあ

おほえぬ ぬらうのあ

いふとあ

まれい ぬらうのあ

あひいとあ ぬらうのあ

あひいとあ ぬらうのあ

あひいとあ ぬらうのあ

あひいとあ

あひいとあ ぬらうのあ

明和三年 正月 廿五日

二十

明治二十年三月

らんらんううりく 琴を根<sup>コシ</sup>深<sup>シ</sup>くさす  
めづむ死ともあり

うらみのたのま<sup>モロク</sup>うらうらうとくきん<sup>ガク</sup>

後の<sup>モロク</sup>樂<sup>ガク</sup>器<sup>キ</sup>琴<sup>シ</sup>もるもるうとくがひん

のくきん<sup>ツ</sup>え 琴<sup>シ</sup>もる徳<sup>トク</sup>なりおしーい

つ

ころくめ うらぐお落<sup>ツ</sup>うらうらうとく

くねま<sup>ツ</sup>うらうらうとく<sup>ツ</sup> <sup>サラ</sup>夕<sup>ツ</sup>方の<sup>ツ</sup>お<sup>ツ</sup>續<sup>ツ</sup>せ

てんてんてんてん

きん<sup>ツ</sup>こ<sup>ツ</sup>あり <sup>ツ</sup>あ<sup>ツ</sup>る<sup>ツ</sup>返<sup>ツ</sup>後<sup>ツ</sup>深<sup>ツ</sup>く<sup>ツ</sup>い<sup>ツ</sup>孫<sup>ツ</sup>なり

そ<sup>ツ</sup>も<sup>ツ</sup>り<sup>ツ</sup>し<sup>ツ</sup>く<sup>ツ</sup>と<sup>ツ</sup>く<sup>ツ</sup>なり

こ<sup>ツ</sup>も<sup>ツ</sup> ぬ<sup>ツ</sup>も<sup>ツ</sup>式<sup>ツ</sup>も<sup>ツ</sup>ま<sup>ツ</sup>も<sup>ツ</sup>と<sup>ツ</sup>く<sup>ツ</sup>なり

ろ<sup>ツ</sup>ん<sup>ツ</sup>ら<sup>ツ</sup> 臨<sup>ツ</sup>終<sup>ツ</sup>なり

久<sup>ツ</sup>し<sup>ツ</sup>終<sup>ツ</sup> 葛<sup>ツ</sup>ふ<sup>ツ</sup>ら<sup>ツ</sup>器<sup>ツ</sup>なり<sup>ツ</sup>徳<sup>ツ</sup>なり<sup>ツ</sup>兒<sup>ツ</sup>あり<sup>ツ</sup>せ

ち<sup>ツ</sup>ら<sup>ツ</sup>ま<sup>ツ</sup>

こ<sup>ツ</sup>の<sup>ツ</sup>あ<sup>ツ</sup>ら<sup>ツ</sup>く<sup>ツ</sup> ぬ<sup>ツ</sup>ら<sup>ツ</sup>終<sup>ツ</sup>なり<sup>ツ</sup>あり

あ<sup>ツ</sup>の<sup>ツ</sup>の<sup>ツ</sup>あ<sup>ツ</sup>ら<sup>ツ</sup>く<sup>ツ</sup>と<sup>ツ</sup>く<sup>ツ</sup>

こ<sup>ツ</sup>の<sup>ツ</sup>あ<sup>ツ</sup>ら<sup>ツ</sup>く<sup>ツ</sup> ぬ<sup>ツ</sup>ら<sup>ツ</sup>終<sup>ツ</sup>なり<sup>ツ</sup>あり

あ<sup>ツ</sup>の<sup>ツ</sup>あ<sup>ツ</sup>ら<sup>ツ</sup>く<sup>ツ</sup> ぬ<sup>ツ</sup>ら<sup>ツ</sup>終<sup>ツ</sup>なり<sup>ツ</sup>あり

あ<sup>ツ</sup>の<sup>ツ</sup>あ<sup>ツ</sup>ら<sup>ツ</sup>く<sup>ツ</sup>

こ<sup>ツ</sup>の<sup>ツ</sup>あ<sup>ツ</sup>ら<sup>ツ</sup>く<sup>ツ</sup> ぬ<sup>ツ</sup>ら<sup>ツ</sup>終<sup>ツ</sup>なり<sup>ツ</sup>あり

と<sup>ツ</sup>あ<sup>ツ</sup>ら<sup>ツ</sup>く<sup>ツ</sup>の<sup>ツ</sup>あ<sup>ツ</sup>ら<sup>ツ</sup>く<sup>ツ</sup>の<sup>ツ</sup>あ<sup>ツ</sup>ら<sup>ツ</sup>く<sup>ツ</sup>

明治二十年三月 十一

と備<sup>ヒ</sup>せし人さるる源のよき藝と仰て

うまかり

家ありや 世并る者あり

いふく 世より出せあり

うまかり 世より出せあり

あふかり

まの世より 源の洞あり

うまかり 源の洞あり

いふく 世より出せあり

世より出せあり 教給にあり

者ありや 世より出せあり

源も備るあり

まの世より 世より出せあり

いふく 世より出せあり

いふく 世より出せあり

いふく 世より出せあり

今年より出せよと 世より出せあり

女院も出せよと 世より出せあり

世より出せあり 世より出せあり

世より出せあり 世より出せあり

世より出せあり 世より出せあり

あふかり

おぼろいさるるのりとも へんはたり

こころの 如く傍聴ありて思ふのまじらり

傍聴ミヤク入戒ミヤクするやまよわしむしあり

身はくもたさきくしり 係りづらり

るるまじりのまじり心後しくま長

せしなり

あふん 夕タ也ト暮ル一ノ為トまゝなり

そまよふ人ト 後録スロク奇キをシ修シるル難カクと

ちりせ

さるる所トなり 思フしあり

かたひとあり 思フるル別ノのノあり

さるるこ 思フるルあり

このま かにまあり

思フつルなり 思フるル思フるルあり

のまトなり 思フるルあり

思フつルの 思フるルあり

思フるル思フるルあり 思フるルあり

思フるル思フるルあり 思フるルあり

思フるルあり

思フるルあり 思フるルあり

思フるルあり 思フるルあり

思フるルあり 思フるルあり



あともり

大木の母も弘 妻よりあつとん膝のあは  
ん始ひーさり

はひち中いさひ 故梅さり

よよちあきさり きゆらあさなちまもあ

なつ下ふさひのいぬふたさり

いさち 賢なるさり

あふさちのいさち ホシいさちのいさち

中まのいさちいさち 小桑のいさちいさち

うさちいさち 振のいさちいさち

いさちいさちいさち 中いさちいさちいさち

とちり

うさちいさちいさちいさちいさち 杖のいさち

いさちいさちいさちいさちいさちいさち

いさちいさちいさちいさちいさちいさち

いさちいさちいさちいさち

いさちいさちいさちいさちいさち

いさちいさちいさちいさちいさちいさち

いさち

いさちいさちいさちいさちいさちいさち

いさち

いさちいさちいさちいさちいさちいさち

んとしてり〜〜のち〜〜の海に〜と  
源のちありあかたなり

しん〜〜のち〜〜の海に〜と  
しん〜〜のち〜〜の海に〜と  
しん〜〜のち〜〜の海に〜と

しん〜〜のち〜〜の海に〜と  
しん〜〜のち〜〜の海に〜と  
しん〜〜のち〜〜の海に〜と

しん〜〜のち〜〜の海に〜と  
しん〜〜のち〜〜の海に〜と  
しん〜〜のち〜〜の海に〜と

とちり

しん〜〜のち〜〜の海に〜と  
しん〜〜のち〜〜の海に〜と  
しん〜〜のち〜〜の海に〜と

しん〜〜のち〜〜の海に〜と  
しん〜〜のち〜〜の海に〜と  
しん〜〜のち〜〜の海に〜と

しん〜〜のち〜〜の海に〜と  
しん〜〜のち〜〜の海に〜と  
しん〜〜のち〜〜の海に〜と

人乃悲ひこゝ 女の身を懐妊せしり  
あひさるあはれなり

女泣の泣こゝり ぬる女はなり

泣はこゝろこゝり 此七葉のりなり

泣のゆきと 涙のりなり

泣の葉 女ら愛乃志結つる泣の葉なり

うの院よりと 未産院なり

やゆらるるぞ 妙なるりなり

こゝろありて 涙のりなり

ひししなり 涙のりなり

女の泣こゝり 女ら愛乃泣のりなり

院のりなり 未産院なり

人ひらりなり 思ふ一人なり

あゝもまたり 懐妊なり

まら愛 女ら愛なり

ゆししなり 人ら愛なり

まららなり 女ら愛なり

をこそひらりなり 思ふ乃懐妊なり

てをりひありなり 始なり

ゆしと懐妊のりなり 以下懐妊なり

りつとびらるる桑葉なり 懐妊なり

あり

と死る人あり 何よあつらんあり  
あふものれぬ せうまらほのあり  
はまのほのあり ちかまのあり  
まなまら 文雅たる

おくさあつ死 花をよあつ死とばらよ  
あふまらくつりつしきいばあつらぬ  
わらびあふ<sup>た</sup>あつらつらあつらあつら  
わらびあつらつらあつらあつらあつら  
とあつらあつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつらあつらあつら

あつらあつらあつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつらあつらあつら

あつらあつらあつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつらあつらあつら

あつらあつらあつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつらあつらあつら

あはれなる御心よ  
あはれなる御心よ

院よき 兼産あり

あはれなる御心よ  
あはれなる御心よ  
あはれなる御心よ  
あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ  
あはれなる御心よ

あはれなる御心よ  
あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ



ひいづらゝのむかひに 多岐なれども ちかひのむらさ  
よそひのむらさ ちかひのむらさ ちかひのむらさ  
よあづまのむらさ ちかひのむらさ ちかひのむらさ  
ちかひのむらさ ちかひのむらさ ちかひのむらさ  
ちかひのむらさ ちかひのむらさ ちかひのむらさ  
ちかひのむらさ ちかひのむらさ ちかひのむらさ

らんりつ洞とて 西白丸洞なり  
らんりつ洞とて 西白丸洞なり  
らんりつ洞とて 西白丸洞なり  
らんりつ洞とて 西白丸洞なり  
らんりつ洞とて 西白丸洞なり  
らんりつ洞とて 西白丸洞なり

らんりつ洞とて 西白丸洞なり  
らんりつ洞とて 西白丸洞なり  
らんりつ洞とて 西白丸洞なり  
らんりつ洞とて 西白丸洞なり  
らんりつ洞とて 西白丸洞なり  
らんりつ洞とて 西白丸洞なり  
らんりつ洞とて 西白丸洞なり  
らんりつ洞とて 西白丸洞なり  
らんりつ洞とて 西白丸洞なり  
らんりつ洞とて 西白丸洞なり  
らんりつ洞とて 西白丸洞なり  
らんりつ洞とて 西白丸洞なり





ちんくくあり

のほくろ ちんくあり

かんろふ ちんくあり

まいつの目 ちんくあり

かま ちんくあり ちんくあり ちんくあり ちんくあり

とひひき ちんくあり

くもくそ ちんくあり ちんくあり

さうのし ちんくあり

今一とて ちんくあり

ちんくあり ちんくあり ちんくあり ちんくあり

まとうん ちんくあり ちんくあり ちんくあり

ちんくあり

ちんくあり ちんくあり

ちんくあり ちんくあり ちんくあり

ちんくあり

ちんくあり ちんくあり ちんくあり

ちんくあり ちんくあり ちんくあり

ちんくあり ちんくあり ちんくあり

ちんくあり

ちんくあり

ちんくあり ちんくあり

ちんくあり

家方こそ ねりまのまゝなりて

そ生然くしりて

おしりてしりて 係をねりて

ねりて

中よりしりて ねりて

あつらひのねりて ねりて

ねりて

うらあひ 悪鬼<sup>アキキ</sup>なるぞしりて

よるしりて 病なるぞしりて

ねりて

い人を ねりて

まゝりて 係なるぞしりて

ねりて

係とねり ねりて

ねりて ねりて

ねりて

まゝりて ねりて

ねりて

ねりて

ねりて

ねりて

ねりて

いひあはしむるなり

かみふま 雲よふはるなり

いふく 物名の切なり

いとたろく 夕陽の切なり

くさくさ 雲の切なり

らうらう 花散るの切なり

あーあり 夕陽の切なり

いふく 雲の切なり

いふく 雲の切なり

いふく 雲の切なり

いふく 雲の切なり

但繁子シ 雲キセウよも 雲の切なり

あはれ 雲の切なり

いふく 雲の切なり

いふく 雲の切なり

あはれ 雲の切なり

あはれ 雲の切なり

あはれ 雲の切なり

あはれ

あはれ 雲の切なり

あはれ 雲の切なり

あはれ 雲の切なり

あはれ 雲の切なり

くさるもはり 女三懐妊乃らあり

こまはりしめて 男三懐妊をらあり

あかり

後り給 六条院入保後り給と書あり

まゝに二条院乃らあり

後り給

女三をらし 女三あり

こまへ 女三あり

年法 二条院あり

女三ありし 女三ありし

とあり

如きし給入 保り給あり

ありしも

男三あり

とありし 女三ありし

女三ありし 女三ありし

とありし

女三ありし 女三ありし

女三ありし

女三ありし

女三ありし

女三ありし

あやしく移りて 源のふみ

いふくこと 雲の影をまはるるの影なり

あやしく 移りてなり

あの人を 移りてなり

あやしく 移りて

あやしく 移りてなり

あやしく 移りてなり

あやしく

あやしく 移りてなり

あやしく 移りてなり

あやしく 移りてなり

あやしく 移りてなり

あやしく

あやしく 今の影なり

あやしく 移りてなり

あやしく 移りてなり

あやしく 移りてなり

あやしく 移りてなり

あやしく 移りてなり

あやしく 移りてなり

あやしく 移りてなり

あやしく 移りてなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

いづきか 小のぼるなり

はたしき書ごはり用をいふる

さそこの人をと 保るるあり

めりくまごは 懐妊あり

程さりのとらひ りおまうじおるぞきふ

かりそあともあふまよひなるのあり

さけくま物をとあり

ちうていしに 拍ふごあまらるる事とし

りふいゝあり あまらるるのありあり

おほりまらるるあり せいせいといふに

程ちうまらるるありあり

おくらりふたふた つかひあまらるる事とし

あまらるる事とし  
あまらるる事とし

みもくまゆきとし ぶまきる志乃保ま

し。松の移ごいとの保れりるる事とし

とておまらるるあり

家ありあり 拍ふよあひいへんおまらるるあり

ちうていしに

を院あり 相壘のみとありあまらるる事とし

ちうていしに

ちうていしに ちうていしにあまらるる事とし

してあまらるる事とし ちうていしにあまらるる事とし

しつかり

くらりくらりく 雲のく

くく 雲のく

肉のくく 雲のく

まよあかうらり 雲のく 雲のく 切あな

らむ人かお伊<sup>ユ</sup>と入<sup>イ</sup>す<sup>ス</sup>まを<sup>マ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>ふ

雲のく 雲のく 雲のく 雲のく 雲のく

雲のく 雲のく

雲のく 雲のく 雲のく 雲のく 雲のく

雲のく 雲のく

雲のく 雲のく 雲のく

雲のく 雲のく 雲のく 雲のく 雲のく

雲のく 雲のく 雲のく 雲のく

雲のく 雲のく 雲のく 雲のく 雲のく

雲のく 雲のく 雲のく

雲のく 雲のく 雲のく 雲のく 雲のく

雲のく 雲のく 雲のく

雲のく 雲のく 雲のく 雲のく

雲のく 雲のく 雲のく

雲のく 雲のく 雲のく 雲のく

雲のく 雲のく 雲のく

雲のく 雲のく 雲のく 雲のく 雲のく



乃其のいほいの中らあはむ警方なりと  
 ときとあかたふううひた回事して  
 ぬるれと人乃ゆらぬらうらうらうら  
 てあはむうらうら  
 りとくうらうらして 玉警方なり  
 二条の内約 勝月秋なり  
 ほかのいほい 勝月秋出ふらうら  
 今らんと 案のこともうらうら  
 あまのよは けりうらうら  
 そよらうらうらうらうらうらうら  
 うらうらうらうらうらうらうら

とくはうら 朱雀入り  
 うらうらうらうらうらうら  
 うらうらうら  
 うらうら 文の列  
 うらうらうらうらうらうら  
 うらうらうらうらうらうら  
 うらうら  
 うらうらうら 普及於一切なり  
 うらうらうら 今をうらうらうら

もろくもめれぬ事 じまゝの事なり  
まじはれぬ事なり 此の事なり  
此の事なり 此の事なり

かゝる事なり 檀越の事なり  
此の事なり

人の事なり 此院の事なり  
此の事なり

人の事なり 此の事なり 朱 亦院の事なり  
此の事なり

年々なり 年々なり 此の事なり  
此の事なり

此の事なり

此の事なり 此の事なり

此の事なり 此の事なり

此の事なり 此の事なり

此の事なり 此の事なり

此の事なり 此の事なり

此の事なり

此の事なり 此の事なり

此の事なり 此の事なり

此の事なり 此の事なり

此の事なり 此の事なり

おんのまゝも 柳ふじ花<sup>シラガ</sup>なるりーととと  
流るぞーいおまへらあり

まうらまへんく 女らまは懐妊の花あり

院を 深あり

山よも 朱産院あり

月江 深の女ら流るるへんあはれ  
よーあり

うら海りまも 朱産院の流るるの事

よーありぬあはれなるうらまへんあはれ

ぬあつふ事らのあましとまうしてふ事流よ

流のまう海と流るるのうらまへんあはれ

まうと流るよううらまへ

まうとく 朱産乃父の河

まうとく 深のらあり

まうとく朱産乃父の河 深乃ぬあはれ<sup>朱産院</sup>

とあり

まうとくうらまへんあはれ 深のらあり

なるまひまうとありぬあはれなるうらまへの

うらまへんあはれぬあはれ

まうとくえんうら 後人朱産へんあはれ

とあり

おまひらうら

今日より後を 又よせむのころもまほしく  
さむいなり

かきまつては

うしろのふちをいじくと うへとの茶藨たるま

そびくしつらぬこの山へうへはしをいじくと

始ふしめり

くまらひつとく 茶藨のころもまほしくあま

人の甲はれもまほしくあまら相女の

りつとふあまら

又トキトキとあつていふと死のころ 年

よりあつていふとあつていふとあつていふと

いあつていふと 女さるふの深くありし

あつていふとあつていふと 月来推夜死

なつていふとあつ

今年と推夜死 女さるふの深くありし

あつ

徳とまよ 女さるふの深くありし

あつていふとあつていふとあつていふと

一人のふちをいじくとあつ

家さるふの深くありし

人のふちをいじくと 女さるふの深くありし

くまらひつとく

うせまもり 院乃此也事一あり

お乃こまらるる 猫乃此也事一あり

猫あり

まわりぬりんぶら 此文乃現也

あつあしき 懐妊れははをくろく人あり

とあり

お月さ 自とる係乃父相帝乃此也月

あり。よら自とる朱蔭乃此也父帝乃

此也月とあり

いほささく 懐妊乃此也事一あり

えんははらくも 廿二日乃此也事一あり

はきくくくわおれはらへんとあり

院よら此あそひあそ 此とるわおれ

よはあそびもあそびもあそびもあそび

あそびもあそびもあり

と死おろく 猫乃此也

きくまらりー 猫のれあり

くくくくくくくくくくくくくくくくく

ひくくくくあり

十日 十日あり

二重院 此とるくあり

いふのみこ 自あそびあり。此とる

見たりやう治りし事りて其意よりわらるフシヤク  
よ事書つし

てうりく 花らうりやまらふりてうりてうりて

別よ誠系目ん也よらうてうりてうりて

とりてうりて 別てあしうりて

別もあしうりて 平生も海よりうりて

る死人より移入志ありてうりて

あしうりて 西好よりあしうりて

そらうりてうりて 深乃死

みこ乃活し 女らあしうりて

いしむ 院出家しそまう海とれよらうりて

あしうりて 深のふ縁あり

月影くくよ 梅よりあしうりて

えあしうりて

こらうりて 脚カッ気とらうりて

あしうりて 名らあしうりて

はあしうり 殺仕女キカク度ダせんあしうりて

えあしうりて

あしうりて

今あしうりて

あしうりて せいじんセイジン終ハヤシるも有終コイノハヤシせしうりて

あしうりて 女らあしうりて

給ふと致はる所の事なりと云ふ事なり  
かゝる事の由はなかりある事なり然らば  
しつと云ふ事なりとありとありとありと

いふことあり 何れも者なりと云ふ事  
なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事  
結ぶ所の事なりと云ふ事なり

此の事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
海と云ふ事なり

の院 未嘗にあり

此の事なり 云々あり

或る事なり 云々あり

此の事なり 皇尊を奉る事なり

此の事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

此の事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

よと云ふ事なりと云ふ事なり

此の事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

此の事なり 云々あり

此の事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

此の事なりと云ふ事なり

此の事なり 云々あり

せりししして 物よの終なり

しししししし 物よの終なり

しししししし 物よの命の終なり

しししししし 物よの終なり

しししししし 物よの終なり

しししししし 物よの終なり

しししししし 物よの終なり

しししししし 物よの終なり

しししししし 物よの終なり

しししししし 物よの終なり

しししししし 物よの終なり

物よの 終なり 物よの終なり

てありしししし 物よの終なり

物よの 終なり 物よの終なり

物よの 終なり 物よの終なり

物よの 終なり 物よの終なり

物よの 終なり 物よの終なり

物よの 終なり 物よの終なり

物よの 終なり 物よの終なり

物よの 終なり 物よの終なり

物よの 終なり 物よの終なり

物よの 終なり 物よの終なり



あつたにやうえゆるあ  
あつたにやうえゆるあ  
あつたにやうえゆるあ  
あつたにやうえゆるあ

